

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



2024年10月期
決算説明資料

泉州電業株式会社



決算説明会 概要

[企業名] 泉州電業株式会社（証券コード：9824）

[決算期] 2024年10月期

[日時] 2024年12月10日（火）10：30～11：30

[場所] 東京都中央区日本橋室町2-2-1

岡三証券株式会社 室町本店 14階会議室G

[登壇者] 代表取締役社長 西村元秀

取締役経営企画室長 福田勇

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



2024年10月期
決算説明資料

泉州電業株式会社



説明資料の表紙ですが、毎回この説明会でこのイラストを使わせていただいております。

我々泉州電業グループが注力している分野、業界をお示ししております。

左下から半導体、これは製造装置関係です。

その次は工作機械、ロボット、自動車のEV関係、特に自動車の生産ラインの設備になります。

右側の上に行きまして、これは農業ハウスの特殊なヒーター線で、農業分野にも注力していること、あとは再生可能エネルギー、これは設備の太陽光発電にも注力しているというところで、最後は制御盤です。

子会社で制御盤の製造をやっている企業もあり、それとのシナジー効果も出ているというところをお示ししています。

社章が真ん中にあり、下段は建築関係です。

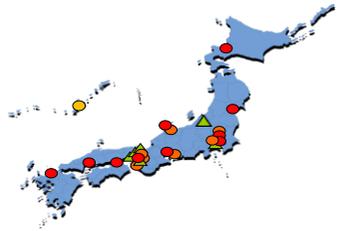
右下の1118は電線工業会が電線の日を11月18日と設定しており、偶然ですが、我々泉州電業の設立記念日も11月18日ということで、こちらで使わせていただいております。

1. 事業概要
2. 2024年10月期 決算概要
3. 中期経営計画
4. 参考資料

それでは目次の方ですが、これからご説明する内容を事業概要、決算概要と、最後に中期経営計画の方をご説明したいと思います。

1 . 事業概要

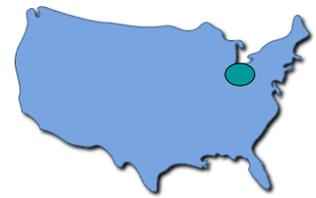
- 設立** 昭和24年（1949年）11月18日
- 株式** 東京証券取引所 プライム市場
- 資本金** 25億 7,520万円
- 業種** 商業（電線総合商社 業界トップクラス）
- 従業員** 825名（平均年齢40.2才）
- 子会社** 国内7社／海外7社（中国・台湾・タイ・フィリピン・ベトナム・アメリカ）
- 事業所** 国内18拠点



アジア



アメリカ

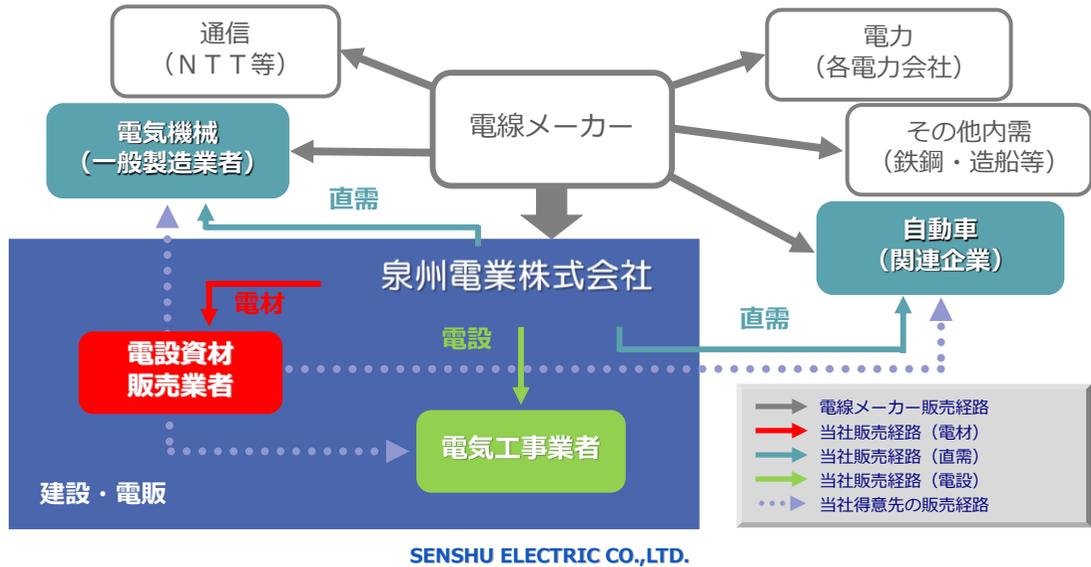


SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

5

まず事業概要ですが、設立が1949年、今年で75期になります。東証プライムの方に上場しております。資本金は25億7520万円で、分類の方は商業という形で、電線の総合商社として上場している企業は少ないため、業界では我々がトップクラスという位置づけになっております。

従業員は825名、子会社は国内外ともに7社、国内の事業所は18拠点、北は札幌から南は沖縄まで全国展開をしております。



次に電線の販売経路について図をお示ししております。

我々は基本商社で、電線メーカーが作った電線を仕入れて販売するのがほとんどですが、この青色で囲んだ業界で建設電販部門と言われるものです。

我々はこのフィールドで仕事をさせていただいています。主に電設資材販売業者、電気工事業者、いわゆるサブコンです。

メーカーから直接行くルートに加えて、我々がなぜ間に入るかといいますと、数多い電設資材販売業者のデリバリー等の利便性、電気工事会社にはストックの商品を拠点に抱えて提供する流れが確立されています。

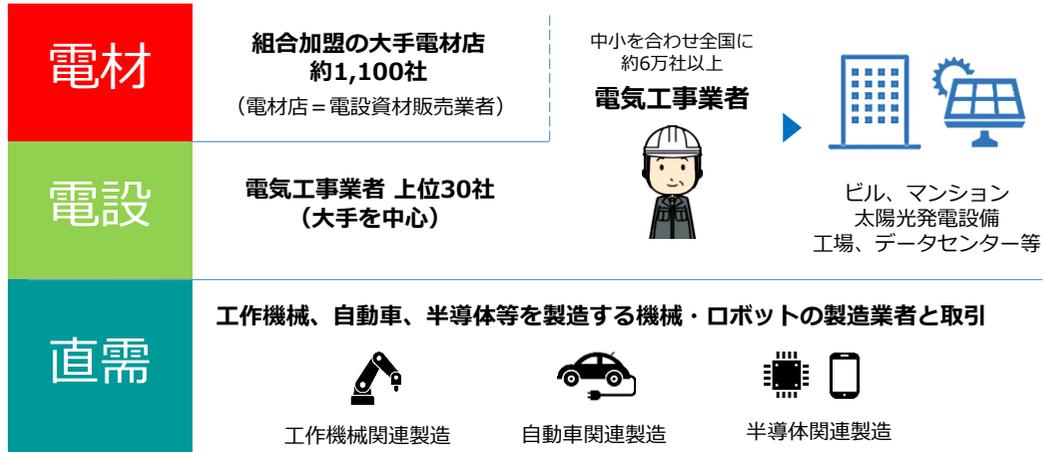
特徴的なのはそれ以外のところで、電線メーカー、通信、電力、鉄鋼造船、電気機械の製造メーカーにも販売されます。

我々も電線メーカーと同じ立ち位置になり、電気機械、自動車生産ラインに直接ケーブルを販売するビジネスを展開しています。

主な得意先（イメージ）



〈得意先数 3,700社以上〉



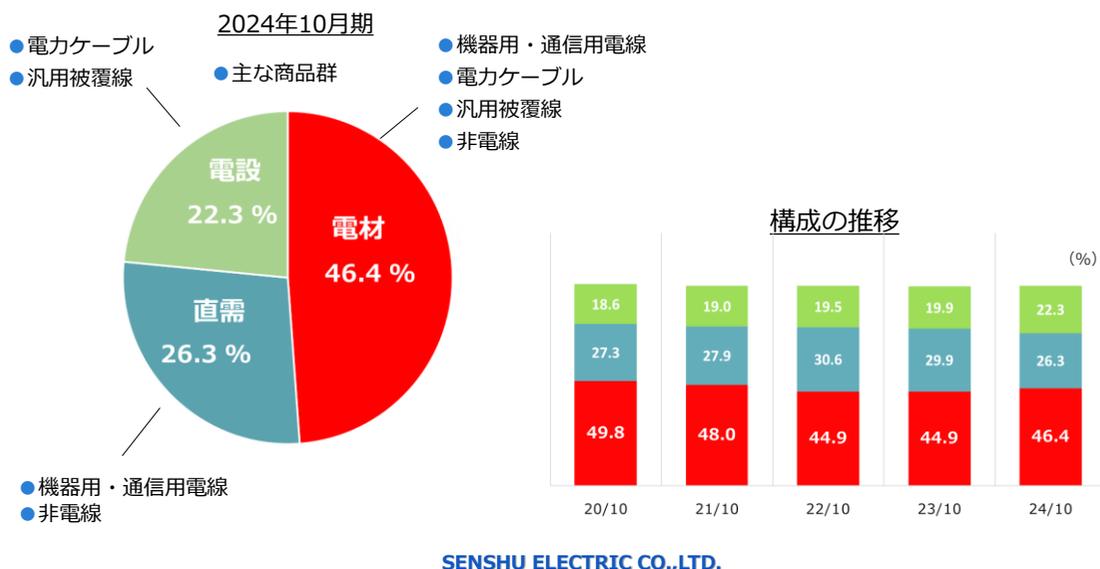
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

その区分が本ページで、電材、電設、直需という言い方をしています。

得意先は泉州電業単体で約3700社ほどあります。

電材は約1100社、サブコンは大手上位30社、主に電力会社の子会社です。

そちらの方に電線を販売するということと先程申し上げた通り、直需は直接、工作機械メーカー、自動車の生産ライン、半導体製造装置が使われているところにケーブル、もしくはハーネス品を販売している得意先構成になっています。



その3部門の構成比は8ページです。

一番多いのが電材で46%、次に直需が26%、電設が22%です。

ここ数年で建築事業が旺盛で、電線ケーブルの主材料の銅価格が上がっているため、電設のシェアが社内シェアですが、増えてきています。

一方、半導体製造装置業界、工作機械が停滞しているため、直需の割合は減少しています。

3つのビジネスモデル（強み）



1

JUST IN TIME 体制 (ジャスト イン タイム)

電線は約20万種と種類も多く重量物であり、保管場所や盗難等の観点から、在庫しづらい。当社は国内（札幌～沖縄）に倉庫床面積7万㎡の物流拠点で5万種以上を品揃え、“必要な時に必要な量”に対応できる体制（JUST IN TIME）を整える。



2

オリジナル商品



ロボット等に使用されるケーブル= **FAケーブル**（Factory Automation/ファクトリーオートメーション）を電線メーカーと開発し、当社独自商品（**オリジナル商品**）として販売。多種多様なニーズを的確に捉え、技術商社としての役割を担う。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

3

電線端末加工 (ケーブルアッセンブリ)

電線販売以外に端末を付属した電線や制御盤等、小ロット・多品種・短納期の加工ニーズに、全国**18拠点中7か所にある加工場**で対応。またグループ会社でも体制を整備し連携を図る。



続きまして、我々のビジネスモデルです。

先ほどビデオでもありました通り、まず一つ目がJUST IN TIME体制です。

電線は非常に品種が多く、特に電力用ケーブルは重量物で、ユーザーがストックを持ちづらい商品です。

我々は全国18拠点に物流倉庫を持ち、お客様の欲しいときに欲しいものを欲しいだけお届けする体制が既に確立しています。

二つ目がオリジナル商品です。

直需部門が特に中心で、ユーザーのニーズに応えたケーブルを我々と提携している中小の電線メーカーに作ってもらい、泉州電業のオリジナル商品として販売しています。

三つ目がケーブルアッセンブリで、電線端末加工ということで、ただケーブルを切り分けしてお届けするだけでなく、ケーブルの先端部分にコネクタ類、部品をつけて、お客様がすぐに機械装置に組み込めるワンストップ的な流れのサービスも行っています。

これが通常の商社と違う我々の強み、ビジネスモデルです。

2 . 2024年10月期 決算概要

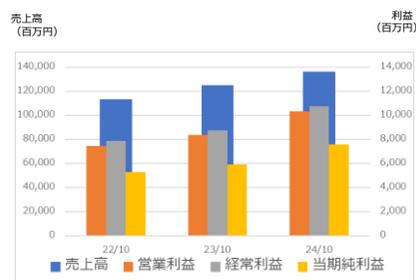
実績

- ・売上高、利益ともに**過去最高額を更新**
- ・半導体製造装置向け及び工作機械向けで一部に需要の停滞も
自動車向け及び建設・電販向けの売上が増加
- ・銅建値平均は**前期比14.4%増の140.9万円/t**

株主還元策

(配当金及び自己株式の取得、消却)

- ・2024年10月期 年間130円 中間配当65円/株、期末配当65円/株
- ・2025年10月期 年間140円予想 (10円増配)
- ・自己株式の取得 (10万株、5億円 (上限) 2024年12月10日から2025年4月30日まで)
- ・自己株式の消却 (100万株、消却後の発行済株式総数：1850万株 2024年12月16日消却予定)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

11

続きまして決算内容をご説明いたします。

決算のハイライトですが、売上、利益ともに過去最高を3年連続で更新しました。

増収増益は4年連続ですが、経常利益は2007年リーマン前に最高記録をしましたので、3年連続で更新したという形になっています。

2024年10月期には、半導体製造装置向け、工作機械に一服感、いわゆる在庫調整期間がありましたが、自動車向け製造ライン、特にEV電池関係の設備、建設需要が売上の伸びに貢献しました。電線の主材料である銅価格も期中平均1トン当たり140万9000円で、前年同期に比べて14.4%増加も、売上数値を押し上げたという形になります。

ハイライトとして株主還元、配当金は2024年10月期第2四半期で上方修正し、年間130円といたします。

来期、今の期ですね、2025年10月期は10円増配、こちらで12年連続の増配という形になります。年間140円を予定しております。

あと自己株式の取得、消却ですね。取得の方が上限10万株の金額で5億円、消却の方は100万株を実施するというので、12月16日の予定で、発行済みが1850万株という形になるという発表をさせていただきます。

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	2023/10		2024/10		増 減	
	金 額	%	金 額	%	金 額	%
売上高	124,967	100.0	136,153	100.0	11,185	9.0
売上原価	106,287	85.1	115,007	84.5	8,720	8.2
売上総利益	18,680	14.9	21,145	15.5	2,465	13.2
販管費	10,313	8.2	10,795	7.9	481	4.7
営業利益	8,366	6.7	10,349	7.6	1,983	23.7
営業外収益	517	0.4	525	0.4	8	
営業外費用	113	0.1	114	0.1	0	
経常利益	8,770	7.0	10,761	7.9	1,991	22.7
特別利益	-	-	349	0.3	349	
特別損失	3	0.0	-	-	△ 3	
税金等調整前当期純利益	8,766	7.0	11,110	8.2	2,343	26.7
法人税等合計	2,788	2.2	3,501	2.6	713	
当期純利益	5,978	4.8	7,609	5.6	1,630	27.3
非支配株主当期純利益	57	0.1	31	0.0	△ 26	
親会社株主当期純利益	5,920	4.7	7,578	5.6	1,657	28.0
平均銅建値 (千円/t)	1,232		1,409		177	14.4

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

12

では損益計算書の概要をご説明いたします。

連結売上高1361億5300万円は、金額で111億円の増加、率で9%増収という形になっております。

次に売上総利益、粗利ですね、こちらが211億4500万円、金額で24億6500万円、率にして13.2%増益と、マージンの率ですね、前期が14.9%、今期が15.5%ということで0.6%改善しております。

次に経費ですが、こちらの方が107億9500万円ということで、4億8000万円増加という形になっております。主な増加理由は、やはり運賃、人件費が主な増加の中身となっております。

経費が4億8000万円増加、一方売上総利益がそれを上回る24億6500万円ということで、営業利益の方は103億4900万円、金額で19億8300万円、率にして23.7%の増益ということで、初めてこの100億円を突破という形になっております。

これに営業外収益、費用を加減いたしまして、経常利益の方が107億6100万円ということで19億9100万円の増加、率にして22.7%となっております。

それと今回、特別利益として従業員の保険の返戻金がありました。

それと2023年に、北陸支店を新たに金沢に新設したんですけれども、金沢市の方から立地奨励金をいただきました。

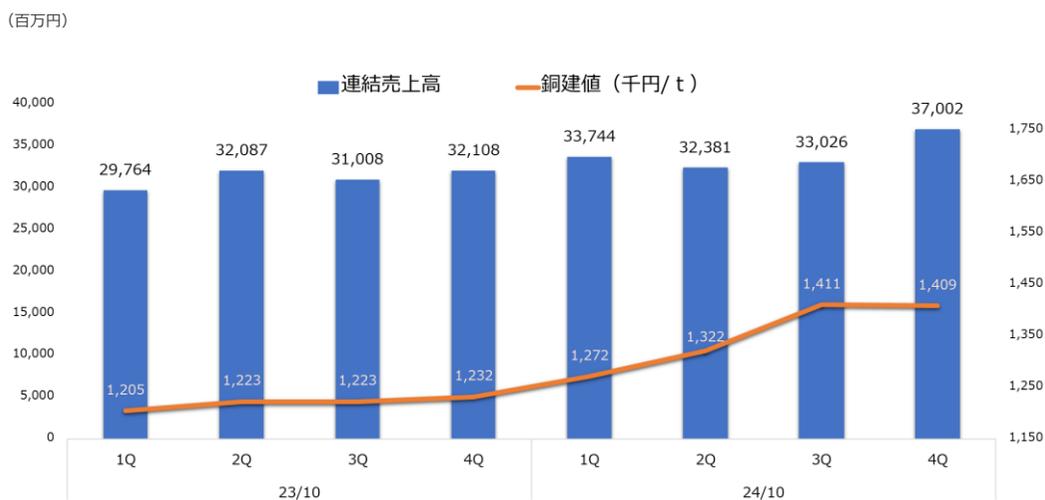
これを特別利益3億4900万円で計上させていただいています。

ということで、税金等調整前当期純利益の方が111億1000万円、金額で23億円、率にして26.7%の増益という形になっております。

ここから法人税等差し引きまして、当期純利益が76億円、最終利益は75億7800万円、金額で16億5700万円、率にして28%の増益という形になっております。

売上が9%、営業利益は23.7%、経常利益が22.7%、最終利益が28%という形で大幅な増収増益の決算という形になっております。

連結売上高 四半期推移



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

13

ちなみに、売上高の構成ですが、まずこの四半期別で分類してみました。

冒頭に社長が説明いたしました電線の品不足、いわゆる特需的なところですね。

これが第1四半期に発生しました。昨年の11月から1月にかけてということです。

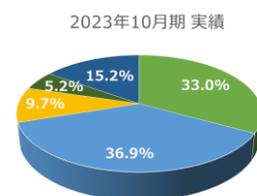
それに加えて、やはり能登半島の震災ですね。震災復興ということもございまして、電線の需要が高まりました。

これは第1四半期の特徴で、第2四半期には若干反動が来たんですけども、第3四半期、第4四半期は順調に進みました。

特に建設関係、北海道の半導体製造工場であったり、関東地区のデータセンターが売上に大きく寄与しております。

(単位：百万円)

	2023年10月期		2024年10月期		増減	(前期比)
	実績	(構成比)	実績	(構成比)		
● 機器用・通信用電線	38,859	33.0%	42,615	32.9%	3,755	9.7%
● 電力用ケーブル	43,438	36.9%	49,724	38.4%	6,285	14.5%
● 汎用被覆線	11,444	9.7%	12,944	10.0%	1,499	13.1%
● その他電線	6,145	5.2%	6,604	5.1%	459	7.5%
● 非電線	17,883	15.2%	17,596	13.6%	△ 287	△ 1.6%
合計	117,772	100.0%	129,485	100.0%	11,713	9.9%
平均銅建値 (千円/t)	1,232		1,409		177	14.4%



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

14

続きまして商品別のラインナップをお示ししております。

我々泉州電業グループは電線ケーブルの販売という単一セグメントでありまして、その中で泉州電業の売上が95%を占めております。

泉州電業の商品分類、この内訳をお示ししております。

まず最初に示しております機器用・通信用電線、いわゆるFAケーブルですね。

主に直需関係、電材関係もありますが、金額で37億円の増加、率で9.7%。

次の電力用ケーブル、汎用被覆線、こちらは主に建設関係、住宅も含めてですが、電力用ケーブルが62億円の増加、率で14.5%。

次の汎用被覆線が需要を増やし、率で13.1%の増加となっております。

次のその他電線ですが、これは中小の電線メーカーに銅電線、芯線をそのまま販売しております。

ということで、銅の価格の変動がそのまま金額に表れるということで、金額で4億5900万円、率で7.5%の増加となっております。

最後の非電線ですが、こちらは電線以外のものという括りになっており、主に先ほどのビジネスモデルで挙げました電線の端末加工をこの非電線に加えております。

ということで、残念ながら2024年10月期は端末加工が若干前期より数字を落としたということで、マイナス2億8700万円という形になっております。

(単位：百万円,%)

	2024年10月期		2025年10月期			2024年10月期		2025年10月期		
	2Q実績	構成比	2Q予想	構成比	前期比	実績	構成比	予想	構成比	前期比
売上高	66,125	100.0	68,000	100.0	2.8	136,153	100.0	140,000	100.0	2.8
営業利益	5,104	7.7	5,300	7.8	3.8	10,349	7.6	11,000	7.9	6.3
経常利益	5,327	8.1	5,400	7.9	1.4	10,761	7.9	11,200	8.0	4.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,674	5.6	3,700	5.4	0.7	7,578	5.6	7,700	5.5	1.6
平均銅建値 (千円/t)	1,322		1,450		9.7	1,409		1,450		2.9

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

15

続きまして業績予想を、こちら昨日発表させていただいています。

今期、2025年10月期の売上高予想が1400億円、率で2.8%増加。

その他、営業利益の方が110億円、率にしまして6.3%の増益、経常利益の方が112億円、率にして4.1%の増益ですね。

最終利益の方が77億円、率の方が1.6%という形になっております。

最終利益1.6%の伸びが低いんですけども、この2024年10月期、先ほど申し上げた特別利益が加算されておりますので、これがないという前提にしますと、約5%の伸びという形で予測をしております。

銅価格ですね、こちらの方も145万円ということで前年に比べて2.9%の増加を予測しております。

連結貸借対照表の概況



(単位：百万円)							
	2023/10	2024/10	増減		2023/10	2024/10	増減
現金・預金	28,534	30,513	1,979	支払手形・買掛金	43,050	48,676	5,625
受取手形・売掛金	23,313	26,451	3,138	短期借入金	691	381	△ 309
電子記録債権	11,302	13,149	1,847	1年内償還予定の社債	64	14	△ 50
有価証券	9	20	11	1年内返済予定の長期借入金	5	—	△ 5
商品	6,914	8,046	1,131	未払法人税等	1,561	2,262	700
仕掛品	247	194	△ 52	賞与引当金	773	852	79
原材料及び貯蔵品	257	294	37	その他流動負債	1,566	1,732	165
その他流動資産	253	772	520				
流動資産合計	70,830	79,442	8,612	流動負債合計	47,713	53,920	6,207
有形固定資産	20,355	21,887	1,532	社債	42	28	△ 14
無形固定資産	303	245	△ 57	長期借入金	54	—	△ 54
投資その他の資産	9,878	10,881	1,002	退職給付に係る負債	2,120	2,224	104
				その他固定負債	719	680	△ 39
固定資産合計	30,537	33,014	2,477	固定負債合計	2,939	2,935	△ 3
				負債合計	50,652	56,856	6,203
				資本金	2,575	2,575	—
				資本剰余金	2,757	700	△ 2,057
				利益剰余金	48,574	53,760	5,186
				自己株式	△ 5,142	△ 3,997	1,145
				株主資本計	48,764	53,038	4,274
				包括利益累計額	1,565	2,172	606
				新株予約権	59	22	△ 36
				非支配株主持分	326	368	41
				純資産計	50,714	55,601	4,886
資産合計	101,367	112,457	11,089	負債・純資産合計	101,367	112,457	11,089

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

16

続きまして貸借対照表、バランスシートの概況をご説明いたします。

資産合計、負債純資産合計が1124億5700万円で、前年同期末に比べて110億8900万円の増加となっております。

主な増加理由ですが、まず流動資産の部分で売上が伸びたため、売掛債権、受取手形、電子記録債権が増加しております。

また、商品も11億円の増加となっております。

有形固定資産は設備投資を行ったため、15億円増加しております。

一方、負債の部分では流動負債が売上高の増加に伴って仕入債務、買掛金が56億円増加しております。

純資産では、特に資本剰余金が27億円から7億円に減少しております。

これは昨年150万株の自己株式を消却したため、その関係で資本剰余金が減少しました。

一方、利益剰余金は51億円増加しております。

利益の内部留保というところで剰余金が増加し、自己株式も11億円増加しております。

バランスシートでは、売掛債権、買掛債務がほぼ50億円半ばでバランスを取っていると考えています。

利益を剰余金として積み上げていますが、後ほどご説明いたします中期のところで、この資金をどう使っていくかをご説明いたします。

1 配当金（年間140円予想）

安定的な配当を基本方針とし、業績・内部留保等を考慮し、総合的に判断して配当を実施。年間配当は、20円増配。
 2024年10月期は**中間配当65円、期末配当65円**。
 2025年10月期は**中間配当70円、期末配当70円**の**年間140円**。
 前期から10円の増配。



2 自己株式の取得及び消却

株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、自己株式を取得予定。尚、同理由により自己株式を消却予定。

- ・取得し得る株式総数 **100,000株**（上限）
- ・取得価額総額 **500,000,000円**（上限）
 （取得期間 2024年12月10日～2025年4月30日）

3 株主優待（年1回100株以上保有株主様）

1年未満：1000円分のオリジナルQUOカード
 1年以上：2000円分のオリジナルQUOカード

- ・消却株式の総数 **1,000,000株**
- ・消却後の発行済株式総数 **18,500,000株**
 （消却予定日 2024年12月16日）

株主還元については、先ほども申し上げた通り、配当金は2025年10月期に10円増配を予測しており、中間70円、期末70円、年間140円を予定しております。

自己株式も10万株、金額にして上限5億円を予定しております。

株主優待も継続し、オリジナルのQUOカードを1年目が1000円、1年以上が2000円で継続いたします。

3. 中期経営計画

現状分析

2017年11月に東京証券取引所市場第一部へ上場以来、業績の向上に取り組んできました。その結果、

① **効率的な経営（2024年10月期：ROE14.4%）**

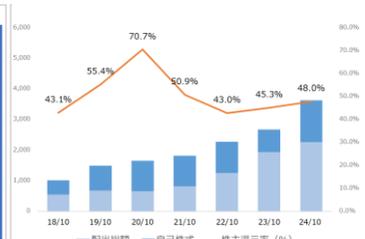
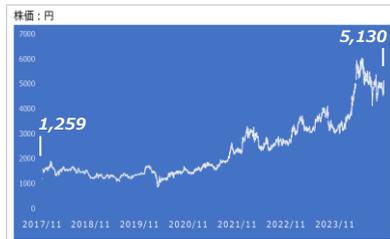
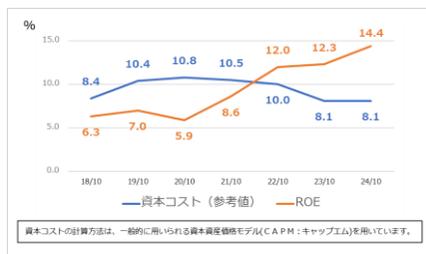
中期経営計画で定めた目標のROE10%以上、社内で算出した資本コスト（8~9%で認識）を上回るROEの結果。

② **株価（2024年10月31日：5,130円、PBR1.62倍）**

IR活動を積極的に行ったことや業績の向上等をご評価いただいたことで株価が順調に上昇。PBRも1倍を超える。

③ **株主還元（2024年10月期：株主総還元率48.0%）**

11年連続増配、自己株取得累計：243万株/74億円と積極的に行った。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

最後に中期経営計画ですが、利益目標を1年で達成したため、組み直しを行い、東証からの要請に応じて資本コストを考慮した経営の実現というところで資料をお付けしているのご説明いたします。

詳細は昨日プレスしている内容と同じですが、現状分析として2024年10月期のROEは14.4%となっております。

我々は2017年11月に東京証券取引所第一部に上場し、その後、プライムに移行しましたが、順調に業績を上げており、ROEも14.4%まで積み上がりました。

現状、資本コストは約8~9%と認識しており、エクイティスプレッドが約5%前後なので、こちらの方は順調に推移していると考えています。

株価は2024年10月末で5130円、PBRは1.62倍となっております。

業績も好調で株価も順調に上がっており、良い数字をお示しできております。

株主還元については、2024年10月期の還元率は48%で、配当は11年連続の増配、今期も増配予定で12年連続となります。

自己株式は累計で243万株を取得し、金額で74億円ですね。こういう形で還元も継続しております。下の方に簡単なグラフをお示ししておりますのでご覧ください。

中期経営計画 SS2027 : 目標



2023年12月7日公表の2026年10月期を最終年度とする「泉州電業グループ中期経営計画」（連結売上高：1,500億円、経常利益：100億、ROE：10.0%以上）を2年前倒しで目標を達成したため、新たに2027年10月期を最終年度とする「泉州電業グループ中期経営計画」を策定した。

	2024年10月期 実績	2027年10月期 目標		今後の取り組み	
連結売上高	1,361億円	1,600億円	+17.6%	ROE ≥15%	収益力の更なる向上
経常利益	107億円	130億円	+21.5%	配当性向 ≥35%	株主還元の充実
ROE	14.4%	15%以上	+0.6pt		
配当性向	30.1%	35%以上	+4.9pt	総還元率 ≥50%	
株主総還元率	48.0%	50%以上	+2.0pt	PBR ≥ 2倍	IR(投資家)、SR(株主)活動の強化
PBR	1.62倍	2.0倍以上	+0.4倍		

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

20

新たな中期の目標で、2027年10月期に向けて3年間で連結売上高が1600億円、2024年10月期対比で17.6%の増加を見込んでおります。

経常利益は130億円、率にして21.5%、ROEは15%以上、配当性向は35%以上、株主総還元率は50%以上でPBRが2倍以上を目指します。

収益力をさらに向上させ、還元を充実させるため、IR、SRを通じてPR活動を進め、3年以内に各々の数字を早くを達成できるよう努力していきます。

		2024年10月期	2025年10月期-2027年10月期	業種
半導体関連 		・ AI需要増 ・ 製造業者の在庫調整		直需 電材
工作機械関連 		・ 製造業者の在庫調整		
自動車関連 		・ 堅調に推移		
再生可能 工ネ関連  		・ 太陽光発電増		電材 電設
建設関連 		・ 大型半導体工場 ・ 再開発、データセンター		
銅価格		・ 急激な上昇		-

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

市場環境・予測として、注力しています半導体製造装置関係、工作機械関係、自動車の生産ライン関係です。着地した2024年10月期は、半導体、工作機械は在庫調整期間で伸び悩みましたが、自動車の設備関係は順調に推移しました。

今後3年間で半導体、工作機械もこれからは良くなると若干当初の見込みよりはずれていますが、この2025年10月期中には戻ってくると予測しています。自動車関係は継続して特にEV電池関係の設備が順調に伸びると予想しています。

再生可能エネルギー関係、太陽光発電等も向こう3年間も順調に伸びると予測しています。

建設関係では、2024年10月期は大型の半導体製造工場や首都圏再開発、データセンターが需要旺盛でしたが、3年間この分野も何とか順調に推移すると予測しています。

銅価格は2024年10月期に170万円台まで上がりましたが、今後は緩やかな上昇を予測しています。銅の最大の消費国である中国の経済の戻り、あとは為替ですね。ドル建てされた銅価格が円建てとなり、我々は指標として扱っていますが、円安がどこまで続くかもポイントになってくると考えています。

オリジナル商品開発及び加工部門強化で 直需部門の売上UP	<p>2027年10月期</p> <p>直需売上シェア 非電線売上シェア</p> <p>26% ▶ 30% 13% ▶ 17%</p>
自社ブランド含む非電線商品の開発及び拡販、 新分野の開拓	
関東地区営業強化及びその他地区のシェア拡大	
JUST IN TIME体制の充実	設備投資 (P.23)
グローバル展開の強化 (グループ収益向上)	インドへ進出 長期目標 連結売上比率30%
サステナビリティ経営	ESGの重要課題 (マテリアリティ) に 対する取り組みの推進 (P.25)
泉州変革プロジェクトの推進	

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

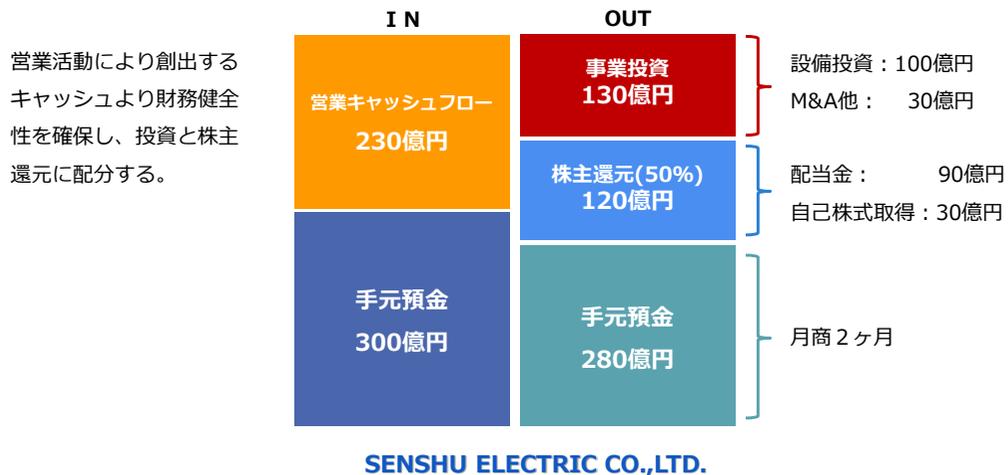
次のページは事業戦略ですね、実際に具体的戦略の中身で3年後の指標目標をお示ししています。利益の中核である直需関係を3年以内に30%まで戻したいと考えています。

電線以外のものですね。銅価に左右されない商品群、こちらの社内シェアを上げていく必要があり、17%の数値を設定しています。

JUST IN TIME体制の設備投資、グローバル展開、サステナビリティ経営等々記載の通りでございます。

財務戦略

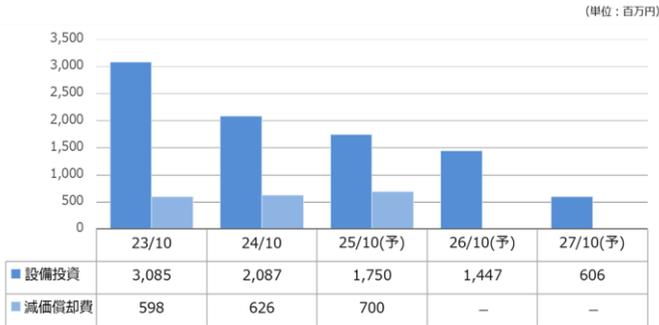
キャッシュアロケーション(2025年10月期-2027年10月期)



最後にキャッシュアロケーションですね。3年間営業キャッシュフローほぼ230億円程あるという形で計算しています。手持ち預金が300億円、これを使って事業投資や株主還元250億円、手持ち資金として月商で約2ヶ月分と設定しています。

こういう形で今後進めていく計画をしております。

2025年10月期-2027年10月期
設備投資100億円



2025年10月期	設備投資理由
名古屋FAセンター (2025年4月完成予定)	ケーブルアッセンブリー、制御盤組立て等
2026年10月期 (計画)	設備投資理由
沖縄営業所 (現、沖縄物流センター)	業容拡大等に伴い営業所を開設
2027年10月期 (計画)	設備投資理由
大阪本店・本社・吹田加工センター新築構想 (2028年10月期完成予定)	集約による業務効率化のため、旧吹田物流跡地に新築

あと設備投資ですね。

グラフの方は実際の計画値をそのままお示ししています。

右の表はですね、この2025年10月期名古屋FAセンター、これは決定事項ですので、金額も反映しております。

次の2026年10月期の沖縄営業所、2027年の大阪本店・本社の新築ですね、計画はありますけれども、まだ具体的な金額は決まっておきませんので、数字の方はまだグラフの方には反映しておりません。

こういう形で3年間ですね、JUST IN TIME体制等々の再構築も含めてですね、国内設備投資というところで今のところは計画を立てております。

新分野開拓

ソイルヒーター



アグリ事業で2027年までに
年間売上高10億円

*2024年9月リリース（アビルヒーターを改良）

農業用地中加温ビニール線

ビニールハウス等の土壌を直接温めることでCO2の排出削減に寄与し、生育スピードが早まることで収穫回転率（サイクル）を上げる。



SDGsに貢献



燃料を使用するボイラーに代わり、ビニールハウス内を温めることから脱炭素、省エネ製品。



その他

農業関連の展示会へも出展しPR。新聞等のメディアPR。試験農場の様子はYouTubeにて配信中。



2025年日本国際博覧会「TEAM EXPOパビリオン」へ参加

アグリ事業担当を中心とした泉州電業アグリチームは、「新しい未来スマート農業で、地球環境にも人にも優しい農業を！」の取り組みを、「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創チャレンジとして登録されています。同プログラムの参加者として、「TEAM EXPOパビリオン」へ参加いたします。 https://www.senden.co.jp/pdf/financer/ns_241204_a.pdf

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あとですね、新しい商品群ということで農業分野ですね、従来からのアビルヒーターという形でいろいろPRをさせていただきましたけれども、新たなラインナップですね、ソイルヒーターという物も今期、新たに販売をしております。

従来のアビルヒーターと性能はほぼ変わらないんですけども、比較的安価に農家の方に提供できる、あとはいろんな分野に応用できるという商品で、今こちらのソイルヒーターに注力という形で販売活動をさせていただいています。

トピックスとしてですね、このソイルヒーターを使ってですね、『新しい未来スマート農業で地球環境にも人にも優しい農業を！』という取り組みを泉州電業アグリチームが行っております。こちらの方、2025年に行われます大阪・関西万博に参加をさせていただくことになっております。

マテリアリティ（重要課題）		関連するSDGs項目	TOPICS
E 環境保全	CO2排出量削減 気候変動への対応 環境法規制の遵守	    	CO2排出量の削減 ECO商品の売上増加（前期比 +36.1%） 2024年10月期は特に、太陽光発電（設備）関連の商品が好調。 *ECO商品とは、当社内で選定した環境調和型商品のこと
S 人権の尊重と配慮 働きがいのある職場環境の整備 安定的な商品供給とサービスの供給	情報セキュリティ強化 品質管理体制の強化 取引先・従業員とのエンゲージメント向上 健康経営の推進 安全衛生の充実 ダイバーシティの推進 福利厚生の充実	        	ダイバーシティの推進 次世代育成支援対策推進法に基づく、一般事業主行動計画を新たに策定。 https://www.senden.co.jp/act/social/upbringing_support/ 健康経営の推進 「健康経営優良法人2024」認定
G ガバナンスの強化	コーポレート・ガバナンスの充実 コンプライアンスの徹底 リスク管理	 	コンプライアンスの徹底 インサイダー取引防止研修の実施

我々はサステナビリティ経営の重要な内容が、やはりESG経営に沿った形ということで、SDGs目標の項目とリンクさせてですね、こういう形でマテリアリティ事項を年間計画を立てて遂行しているというところでお示しをしております。

4. 参考資料

電線には「銅電線」「アルミ電線」の2種類があり、当社が取り扱うほとんどが「銅電線」である。
銅電線の主材料である銅の価格（銅建値）は、電線を販売する上で重要。銅建値と売上高の推移は次の通り。

国内銅建値は、LME＝ロンドン金属取引所（London Metal Exchange）の国際銅建値と為替を換算し、JX金属により決定されます。

〈銅建値と月次売上高推移（単体）〉



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あと参考資料ですね、24ページが泉州電業の月次の売上高と銅価格推移ですね。

月次売上高と銅価格というのはこのようにほぼほぼリンクしているというところでご認識をいただければと思います。

12年連続実質増配予定



(注)当社は2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して配当性向を算出。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

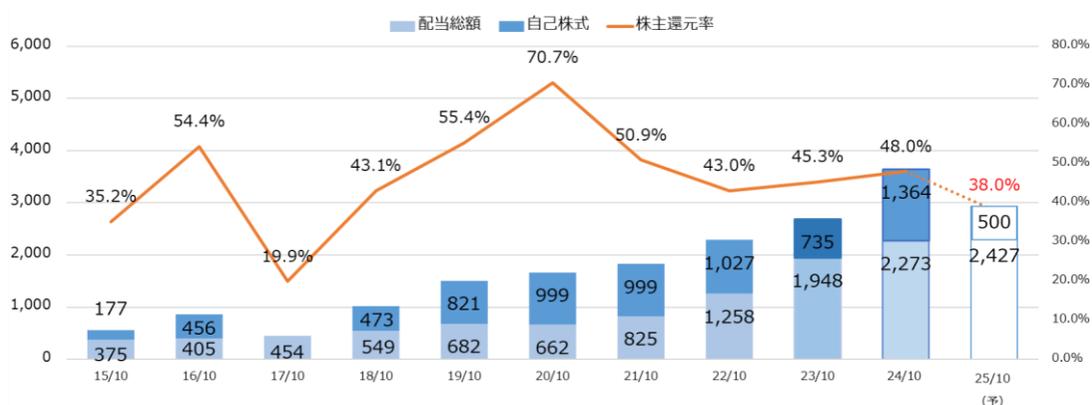
この2025年10月期で12年連続、配当性向は31.5%、中計の目標が35%以上ですから、まだまだこれから頑張らないといけないというところです。

株主還元（配当+自己株式取得）の推移



(単位：百万円)

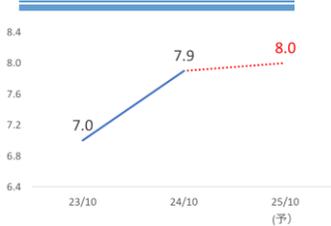
配当+自己株式取得の継続的な株主還元を実施



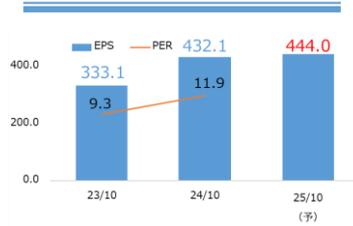
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

総還元の方も2024年10月期は48%ですけれども、2025年10月期、今のままですと、今回自己株式の取得を発表しましたけれども、計算上は38%という形ですね、自己株式の取得がもう一段あれば、同じような還元率になるのかなというところです。

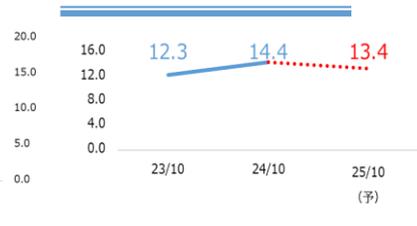
経常利益率 (%)



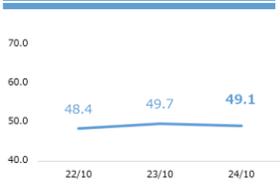
EPS・PER (円/倍)



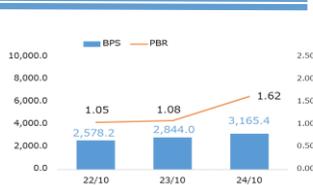
ROE (%)



自己資本比率 (%)



BPS・PBR (円/倍)



DOE (%)



(注)当社は2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あとは各指標ですね、こういう形でお示しをしております。

	2017年10月期	2018年10月期	2019年10月期	2020年10月期	2021年10月期	2022年10月期	2023年10月期	2024年10月期
売上高（百万円）	74,956	82,038	83,676	74,288	92,463	113,633	124,967	136,153
営業利益（百万円）	3,202	3,868	3,979	3,124	4,743	7,464	8,366	10,349
経常利益（百万円）	3,455	4,105	4,206	3,382	5,004	7,894	8,770	10,761
親会社株主に帰属 する当期純利益（百万円）	2,289	2,371	2,714	2,351	3,583	5,314	5,920	7,578
営業利益率	4.3%	4.7%	4.8%	4.2%	5.1%	6.6%	6.7%	7.6%
自己資本比率	58.0%	56.8%	57.7%	59.8%	50.9%	48.4%	49.7%	49.1%
ROE	6.4%	6.3%	7.0%	5.9%	8.6%	12.0%	12.3%	14.4%
期末株価*	1,255円	1,304円	1,425円	1,446円	2,382円	2,696円	3,085円	5,130円
1株当たりの純資産額*	1830.83円	1921.82円	2047.40円	2147.90円	2342.59円	2578.24円	2843.95円	3165.42円
PBR	0.69倍	0.68倍	0.70倍	0.67倍	1.02倍	1.05倍	1.08倍	1.62倍
年間配当	45円	55円	70円	70円	90円	140円	110円	130円
配当性向	19.9%	23.3%	25.3%	28.3%	23.2%	23.8%	33.0%	30.1%
株主総還元率	19.9%	43.1%	55.4%	70.7%	50.9%	43.0%	45.3%	48.0%

2017年11月 東京証券取引所第1部へ上場

2022年4月 東京証券取引所プライム市場へ上場

* 2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、期末株価及び1株当たりの純資産額の2021年10月期以前の数値は1/2で表示しております

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

32

過去の東証一部に上場してからの推移という形でも数字をお示ししております。

ご清聴ありがとうございました



東京証券取引所 プライム市場
コード 9824

泉州電業株式会社

ということで私からのご説明は以上で終わりたいと思います。
ご清聴ありがとうございました。

掲載内容に関する注意事項

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。将来の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることに留意下さい。本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さい。
万が一この情報にもとづいて被ったいかなる損害について、弊社及び情報提供者は一切責任を負いません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
尚、情報は常に最新情報を反映しているものではないことをご承知おき下さい。

